

ZENFAUREN

全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

附属だより
第117号

全附属ホームページ
http://www.zenfuren.org/



全附P連最新情報
https://www.facebook.com/
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会
-535185576863562/



~子どもたちとこの国の未来のために~

第117号

LINEUP

令和3年度
新体制委員会
活動方針

2~3面

緊急特集

『新しい時代の
研究発表への挑戦』

4~5面

香川大学教育学部の
リカレント教育について
香川大学教育学部
教授 北林 雅洋

5面

『新しい時代の部活動
~教育効果と
働き方改革の両立~』

6面

子ども生活支援(貧困対策)

内閣府政策統括官(政策調整担当)付
参事官(子どもの貧困対策担当)付
参事官補佐

大澤 宙 様

知財創造教育

前 内閣府知的財産戦略推進
事務局参事官補佐

守 誠 一 朗 様

財政教育プログラム

前 財務省大臣官房地方課広報
連絡係課長補佐

折居 光博 様

命の大切さ

文部科学省初等中等教育局
児童生徒課生徒指導室室長

鈴木 慰人 様

7面

あいサポート運動を
意識した企業の紹介

松江しんじ湖温泉 なにわー水
代表取締役社長

勝谷 有史 様

8面

作文・絵作文コンクール

9面

全附P連表彰

10~11面

ご寄稿いただきました皆様の肩書は
令和3年6月5日 現在のものです。

コロナ禍における児童生徒の自殺者増加に関する文部科学大臣メッセージ

子供のSOSを
受け止めましょう

令和3年5月、萩生田文部科学大臣より不安や悩みを抱える全国の児童生徒等へ向けた自殺予防に係るメッセージが文部科学省ホームページに掲載されました。
本メッセージは当事者の児童生徒用と彼らを見守る立場にある学校関係者・保護者用の2種類があります。児童生徒用のメッセージには、たとえ学校生活や学習に不安を抱えたりしていたとしても、一人で悩むことなく、誰にでも相談してほしいこと、そして周りの大人が自分の味方であることを伝え、相談窓口の紹介をしています。学校関係者・保護者用のメッセージには、児童生徒の自殺が増加傾向にあることを伝え、子供と向き合うことを求めています。いずれのメッセージも、児童生徒の不安や悩みを国として真剣に取り組む姿勢を示したものであり、この大臣メッセージを重く受け止め、全附P連は不安や悩みを抱える児童生徒に真剣に向き合っていきます。

文部科学大臣メッセージ 文部科学大臣 萩生田 光一

「不安や悩みを抱える全国の児童生徒や学生等のみなさんへ」
(文部科学省ホームページ)



子供のSOSダイヤル等の相談窓口

24時間子供SOSダイヤル(通話料無料) なやみ言おう

0120-0-78310



前 文部科学省 総合教育政策局
教育人材政策課
教員養成企画室長
齋藤 潔 様

附属学校関係の皆様におかれては、学校教育への御支援、子供たちの健全育成のために多大な御尽力をいただいていることに敬意を表します。
今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に象徴されるように、我々は急激に変化し、先行きの予測が困難な時代に直面しつつあります。このような中で、子供たちが変化を前向きに受け止め、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。
本年1月に中央教育審議会において取りまとめられた、「令和の日本型学校教育の構築を目指して」答申では、子供たちがこれからの社会に必要な力を育むことができるよう、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことの必要性が提言されているところです。
また、このたびの通常国会で成立した義務標準法の改正により、公立小学校の学級編成の標準が35人に引き下げられることになりましたが、文部科学省としても、GIGAスクール構想によるICTの活用と、その効果を最大化する少人数学級を、いわば車の両輪のように推進することで、誰一人取り残すことなく、全ての子供の可能性を引き出すことができるよう、教育の充実に取り組んでまいります。
国立大学の附属学校は、実験的な、先導的な教育への取組、教育実習、大学・学部における研究への協力など、我が国や地域の教育を牽引するモデル校としての役割を果たしてこられたところですが、ICTを活用した先導的な教育や、少人数学級の効果の実証的研究にあたっては、附属学校がより先導的な役割を果たしていただくことを期待しております。
関係者の皆様方におかれましては、今後とも、子供たちの健やかな学びを最大限保障するため、附属学校の教育を引き続き、御支援いただきますようお願いいたします。

新しい時代へ向けて 今こそ附属学校園の存在意義を高める



一般社団法人全国国立大学附属学校
PTA連合会
会長 大竹 昌士
(茨城大学教育学部附属小学校)

この度、令和3年度会長に就任することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。
昨年からのコロナ禍による影響は、日本国内のみならず全世界に大きな影響をおよぼしました。新型コロナウイルスにより、尊い命を亡くされた方に心より哀悼の意を表します。また、新型コロナウイルスの治療等で大変な思いをされた方々にもお見舞い申し上げます。治療や感染防止対策にご尽力いただいている医療従事者や関係者の皆様に感謝の意を表します。学校現場においては、子どもたちの学習機会の確保や日々の感染防止対策にご尽力いただいている教職員の皆様へ改めて感謝の意を表します。少しでも早く、新型コロナウイルスが終息することを願っております。
今年度も、全附P連では公益性、公共性をもった活動を止めることなく、全国の附属学校園に必要とされる事業や情報を発信してまいります。
昨今、全附P連が担う大きな役割と感じていることは、時代のニーズをいち早くとらえ、附属学校園に社会から求められていることを、皆様と共有できるように情報発信していくことだと考えています。これからの学校教育を構築するための研究にとって、全国の附属学校園が必要とされる存在でなくてはなりません。例えば、今年度から全国の小中学校に整備されたICTを活用したGIGAスクール構想の取り組みについても、モデル校である附属学校がどのような存在意義を発揮できるのかを考えなければならぬと思っています。もちろんPTAだけでどうにかなるものではなく、日本教育大学協会や附属学校連盟とも連携しながら、三位一体の活動を推進していく必要があります。
会員の皆様にもそれぞれの大学、学校園と力を合わせ、附属学校園の存在意義を高めるための活動にお力添えをいただければと思います。
子どもたちとこの国の未来のために、精一杯活動してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

コロナ禍と〈希望〉のありか



全国国立大学
附属学校連盟
理事長 池田 全之

昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の蔓延の中で附属学校の教育活動が実施されております。昨年度は一斉休校に始まり、軒並み学校行事関係は中止になっておりましたが、今年度は、昨年度の経験も踏まえながら「今できる最善」をめざして、コロナ禍でも可能な形態の教育活動の充実を目指して果敢に挑戦する附属学校の教職員の姿に接し、日々深い感銘を受けております。
さて、私の専門は教育哲学研究ですが、日頃読み貯めていた文献を思い起こしながら附属学校の教育実践に触れる中で、17世紀オランダの思想家であるスピノザの思想をたびたび思い出していました。スピノザは、人間の本质とは生存への意志であると考え、自分の生命力が増大する〈喜び〉こそ善であると言いました。このように言うと、自己中心的な思想だと思われるのですが、スピノザは同時に興味深いことを言います。生命力が高まり私が喜びで満たされるためには、私が所属する集団全体の力が高まるのが最もよいと言っています。つまり集団の中で、自分だけが喜びを感じ、他の人たちが意気消沈(悲しみ)しては、集団全体としては力が落ちてしまい、結果として自分もまた悦ばしい生活を送れないというのです。そのためにスピノザは、他者には憎しみをできるだけ感じないようにし、愛で応える生を推奨しました。
スピノザがこのように述べた時代もまた、ペストが蔓延する危機の時代でした。私は、現在のように制約が多く行動を制限されてストレスのたまる時代だからこそ、「自分が悦ばしく生きるために、むしろ他者の力を高めるように互いに行動し合おう」というスピノザのメッセージが生きてくべきではないかと思えます。コロナ禍の中でこのように生きるすべてを身に付けることができれば、来たるべきアフター・コロナの時代がより生きやすい時代となるのではないかと思います。「危機のただ中に希望もまた萌す」(ヘルダーリン)のです。

第69回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会総会



第69回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会総会が、令和3年6月5日に開催されました。

本年度もリモートにより実施しました。昨年度は各地区の会長が地区の代表として出席していただきましたが、本年度は全国全てのPTA会長を出席対象として行いました。

大人数によるZOOMでの総会でしたが大きな不具合もなく無事開催されました。

総会内では一号議案から六号議案までそれぞれの議案について無事承認をいただきましました。

二年続いた神余会長から新会長として大竹昌士会長にバトンが引き渡されました。

本年度も子どもたちこの国の未来のために全力で邁進してまいりますのでどうぞよろしくお願ひします。

令和3年度 活動基本方針

一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

- 共有、対話による理解**
附属学校の果たすべき使命である日本の公教育を支える国の拠点校、地域のモデル校としての役割について、学校をサポートすべくPTAが参画し実践実践することを得た情報を会員相互で共有するとともに、連合会はその貢献度を各関係官庁や諸団体に広く発信していく。また、各学校PTAがそれぞれの学校で直面する課題を解決するための一助として、設置者である国立大学法人とのさらなる連携と対話を提唱する。
- 附属学校PTA活動の活性化支援と各組織の相互連携**
子どもの成長過程に応じた教育の在り方、学習環境の充実と安心安全の確保、附属学校を取り巻く諸問題などへのPTAの関わり方を実践研究し、その成果や課題を共有、議論するための研修大会を開催し、連合会、連盟と各学校PTAとの絆をより強く保つ。また、全国各地区会活動を有機的に支援し、連盟との協働による活動の活性化を図る。加えて全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会と
- 対内および対外への広報活動の強化**
各学校PTAが子どもたちそれぞれの学校にしっかりと寄り添い、有意義な活動ができるよう、参考となるPTA活動の事例および情勢などを全国の附属学校および各学校PTAに発信し情報共有の強化を図る。また、附属学校がさらに広く世の中の理解と支援が得られるよう、マスメディアや関係諸機関に対し積極的に広報活動を展開する。さらにはICTを活用した情報交換、共有など、連合会が主体となってその運営強化を図る。
- 「共生社会」の推進**
連合会では特別支援教育に対する理解と連携を進める諸活動の推進を掲げ、様々な取り組みを継続してきた。これからは種を超えた絆を育て、多様な個性を持つ仲間との相互理解を育む活動を推進および発信する。また、自他を共に尊重する態度、能力の育成、自己有用感・自己肯定感の育成を目指した活動を推進し、インクルーシブ社会および一億総活躍社会の実現の牽引に努める。
- 国の目指す教育改革の先駆者として**
国の目指す教育改革の先駆者たる附属学校のPTAとして、連合会は学校の働き方改革に協力するとともに教員という職業の魅力向上に貢献する。加えて土曜日や放課後の有効活用ならびに外部人材や資源を発掘し子どもたちの新しい学びの環境を創造することを提唱する。また、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないようその現状を調査研究および実践し、有効な対策と教育を通じて貧困が連鎖することなく、すべての子どもたちが夢と希望を持って成長することのできる社会の実現を目指した活動を推進する。さらには学校の内外を問わず子どもたちの安心安全を確保するため防犯、防災に関する教育や活動および有害なIT環境の問題から子どもたちを守る活動を推進する。
- コロナウイルス感染防止対策を考慮したこれからの活動について**
令和2年度はコロナウイルスによる大きな社会的混乱が生じた。全国の学校でも休業など異例の事態となった中、附属学校や各学校PTAも前例のない対応に苦慮した一年となった。また、附属学校では学校休業により学習の機会が失われることがないよう、子どもたちの教育をどう支えていくかという課題にも取り組んでいるところがある。連合会は、このような状況の中、まずは、附属学校や各学校PTAの感染防止対策にしっかりと寄り添い、子どもたちや関係者の方々の健康に配慮して活動を行う。附属学校や各学校PTAに連合会のサポートの必要がある時はすぐに支援できる体制を整える。
- 創立70周年に向けて**
令和4年度は連合会創立70周年となる。これまで連合会は、附属学校の公益性、公共性向上に向けた連携強化、子どもを取り巻く現代的な教育課題への積極的対応、PTA活動の合理的な機能強化とコンプライアンスの徹底、附属学校やPTA活動の積極的な情報発信を掲げ活動してきた。この一年は、これから時代が変化していくこと、また、国立大学法人の第4期中期目標・中期計画が策定されることも踏まえ、子どもたちの学習環境の充実と、安心安全の確保に加え更なる取り組みを検討していく。その成果として、創立70周年ビジョンを策定し、その取り組みを内外に発信する。

令和3年度 (一社) 全国国立大学附属学校PTA連合会 役員・理事・監事・顧問・評議員構成

直前会長	神余 智夫 (香川坂出幼小中)	会長	大竹 昌士 (茨城小)	理事会推薦理事	地区推薦理事	
監事	板倉 雄一郎 税理士			専務理事	事務局	
	呉本 啓郎 平成29・30年度会長			田口 智之 (岩手中)	事務局長 田中 一晃	
担当副会長(主)	萩原 清明 (奈良女子中等教育)	大倉 宏治 (岡山中)	大倉 宏治 (兼任)	桑名 良尚 (三重中)	谷田部 秀男 (香川高松小)	
担当副会長(副)	田口智之(兼任)	田口智之(兼任)	桑名良尚(兼任)	谷田部秀男(兼任)	萩原清明(兼任)	
委員会	総務	財務	広報	研修	幼稚園特別支援	
委員長	高地 たか子 (千葉中)	森川 誠 (奈良女子小)	西村 寧 (滋賀小)	二村 美里 (静岡浜松中)	齋藤 伸 (福島特支)	
副委員長	鈴木 規秀 (金沢小)	服部 直毅 (北海道教育札幌中)	阿部 智 (千葉中)	山口 泰一 (お茶の水女子小)	宮本 昌尚 (香川坂出幼小中)	
委員			仁木 陽介 (福岡小倉中)	来栖 佳明 (山口中)	真壁 雄一 (埼玉小)	
連盟選出理事	太田 千佳子 (北海道教育特支)	村上 潤 (東京学芸小金井中)	垂井 由博 (京都教育京都小中)			
顧問	井上 恒治 平成28年度 会長	増田 梓 令和2年度 副会長	小出 克元 平成21年度 副会長			
評議員	北海道地区(会長 服部 直毅)		東北地区(会長 佐藤 淳)		関東地区(会長 廣川 幸信)	
	梅本 剛 (北海道教育札幌小)	江端 直美 (北海道教育函館小)	佐藤 淳 (秋田中)	後藤 友樹 (弘前小)	廣川 幸信 (横浜国立鎌倉小)	船戸 智香子 (東京工業高)
	北信越地区(会長 島田 透)		東海地区(会長 石丸 泰雄)		近畿地区(会長 西村 寧)	
	島田 透 (富山小)	大谷 和弘 (上越中)	石丸 泰雄 (名古屋中高)	世古 丈人 (三重小)	小林 哲也 (京都教育桃山中)	木原 三郎 (和歌山小)
中国地区(会長 廻野 智典)		四国地区(会長 竹内 茂明)		九州地区(会長 木場 一志)		
廻野 智典 (広島福山中高)	藤原 勝 (島根義務教育後期)	竹内 茂明 (高知中)	宇野 健一 (愛媛中)	木場 一志 (長崎中)	中村 悠雅 (福岡教育小倉小)	
連盟選出評議員	岡部 恭幸 (神戸幼小)	河野 雄二 (大分中)	木村 勝彦 (茨城小)	吉田 隆 (奈良女子中等教育)	大木 圭 (千葉小)	

正副直前会長
顧問、監事
総務委員会

専門委員
安村俊己、大嶽雅哉、
横堀太郎、岡部太郎、
竹川裕之、勝谷有史、
平岡昌純、江口浩代、
三輪慶一郎

令和3年度 委員会活動

総務委員会

1. 総務全般
2. 諸会議の設営（総会・正副会長会・理事会・評議員会・地区会長会、運営企画会議）
3. 地区間交流事業の実施
4. 附属学校での取り組みを発信する場の提供
5. 子どもの貧困に関する調査研究と対策の検討（東京学芸大学との連携）
6. 表彰の企画・運営
7. 70周年事業の企画・運営
8. 特別広報活動（ムック本発刊）の取り組み
9. 文部科学省をはじめとする関係省庁、関係団体との連携
10. 全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会との連携
11. 運営企画会議への参画
12. PTA研修会第12回全国大会への参画
13. 広報活動（ホームページ運営含む）への協力
14. その他

財務委員会

1. 会計業務全般
2. カンガルー保険関係業務
3. いじめ対策活動等助成事業の実施
4. いじめ防止プログラム関係業務
5. 財政教育プログラム関係業務（財務省との連携）
6. 金融経済教育プログラム関係業務（金融庁との連携）
7. クラウドファンディング関係事業
8. 附属学校の産学連携に関する調査研究
9. 運営企画会議への参画
10. PTA研修会第12回全国大会への参画
11. 広報活動（ホームページ運営含む）への協力
12. その他

広報委員会

1. 広報活動全般（情報収集・情報発信・取材対応）
2. 附属だよりの企画・取材・編集・発行
3. ホームページの企画・運営
4. 絵画コンクールの実施（主管校：香川大学教育学部附属坂出学園）
5. 作文絵作文コンクールの実施
6. 特別広報活動（附属学校に関する戦略的広報活動、SNS等）の企画・運営
7. 運営企画会議への参画
8. PTA研修会第12回全国大会への参画
9. その他

研修委員会

1. PTA研修会第12回全国大会の企画・運営
2. 全国大会実行委員会の運営
3. PTA研修会第13回全国大会の企画
4. 国立大学附属学校全国同窓会との連携、大同窓会運営協力
5. 附属学校の産学連携に関する調査研究
6. 附属学校の存在意義を高める教育プログラムの開発
7. 運営企画会議への参画
8. 広報活動（ホームページ運営含む）への協力
9. その他

幼稚園特別支援委員会

1. カンガルーシップ活動助成事業の企画・実施
2. 特別支援学校・学級に関する調査研究
3. 就労支援に関する調査研究
4. あいサポート運動関係業務
5. 附属幼稚園の取り組みに関する調査研究
6. 幼稚園PTA連携事業の企画・運営
7. 特別支援学校PTA連携事業の企画・運営

8. 特別広報活動（ムック本）への参画
9. 関係団体・特別会員特別支援学校との連携
10. 運営企画会議への参画
11. PTA研修会第12回全国大会への参画
12. 広報活動（ホームページ運営含む）への協力
13. その他

〈特別委員会・実行委員会〉

全国大会実行委員会

1. PTA研修会第12回全国大会の連絡・調整・実施
2. PTA研修会第13回全国大会の企画・連絡・調整
3. その他

70周年事業実行委員会

1. 70周年事業の企画・連絡・調整
2. 70周年ビジョンの策定
3. その他

重点活動特別委員会

1. 附属学校改革に関する情報収集・情報発信・諸対応
2. 寄付金に関する調査ならびに全附後連との連携
3. 特別広報活動の推進
4. 貧困に関する調査研究活動
5. 知的財産教育に関する調査研究活動
6. あいサポート運動の支援
7. 幼稚園・特別支援学校と課題の共有
8. 国立大学附属学校全国同窓会への支援
9. 運営企画会議の企画・運営
10. 活動についての検証
11. その他

役員・委員長・監事・地区会長の活動方針

 <p>萩原 清明 副会長 <small>70周年事業実行委員長 (総務・幼稚園特別支援委員会担当)</small> 新型コロナウイルス対策に対応した、新たな取り組みや課題を考え、連合会の合理的かつ的確な運営を行い、附属学校の公益性・公共性を高める活動に取り組む。</p>	 <p>大倉 宏治 副会長 <small>重点活動特別委員長 (財務・広報委員会担当)</small> 前年度に引き続き副会長を務めます。よろしくお祈りします。「変革と周知」。日本の公教育が大きな転換を迎える中、今年度は特別活動の充実を！</p>	 <p>神余 智夫 直前会長 前会長としての職務の経験を生かし、全附P連の目的達成や更なる発展に向けて、会長の諮問に応じ適切な助言または業務の執行をします。</p>
 <p>谷田部 秀男 副会長 <small>(研修・幼稚園特別支援委員会担当)</small> 理事5年目となり、本年度副会長を拝命致しました。特別支援学校・学級に加えて幼稚園をサポート対象に加え附属学校園の発展に尽力して参ります。</p>	 <p>田口 智之 専務理事 <small>70周年事業実行副委員長・重点活動特別委員長 (総務・財務委員会担当)</small> 今だ終息の目途が立たないコロナ禍の中ですが、子どもたちとこの国の未来のために邁進していく全附P連の活動を、全身全霊で支えていく所存です。</p>	 <p>桑名 良尚 副会長 <small>全国大会実行委員長 (広報・研修委員会担当)</small> 大学・学校・保護者が一体となり、子どもたちの「生きる力」を育む社会を構築できるよう、全国大会等魅力ある研修会を企画・立案・運営していきます。</p>
 <p>森川 誠 財務委員長 適正な財務諸表の作成と資金収支、予算などの財務管理を中心に、財政・金融の教育プログラム普及の促進、カンガルー保険の拡張他、公教育に資するよう活動を行っていきます。</p>	 <p>西村 寧 広報委員長 全国各地域で貢献する附属学校園そして全附P連の活動を一人でも多くの皆様に知っていただけるよう様々な手法を用いながら努めていきたいと思ひます。</p>	 <p>高地 たか子 総務委員長 総務委員長の高地たか子と申します。子どもたちの教育環境の充実へ寄与できるよう、機能的な会の運営、準備に努めます。よろしくお祈り致します。</p>
 <p>齋藤 伸 幼稚園特別支援委員長 特別支援学校・学級と幼稚園の子どもたちが自分らしくのびのびとした毎日を過ごせることにつながる活動を目指してまいります。ご意見お寄せください！</p>	 <p>板倉 雄一郎 監事 一般社団法人化のメリットを活かしながら、コロナ禍の制約がある中でも効率的な活動が行えるよう、監事としてサポートしていきたいと思ひます。</p>	 <p>二村 美里 研修委員長 <small>全国大会副実行委員長</small> 今年の全国大会は、オンラインで開催します。「広がる、繋がる、附属は一つ！」子どもたちの明るい未来のために有益な情報をお届けします。</p>
 <p>服部 直毅 北海道地区会長 北海道地区10校園の活動が充実出来るように地区内の連携を計り、子どもたちとこの国の未来のために全国の附属学校の仲間と共に活動していきます。</p>	 <p>佐藤 淳 東北地区会長 その時々状況を見極め、子供たちが安心して学校生活を送れるよう、東北地区の強固な連携のもとで、出来ること、出来る方法を考えながら活動して参ります。</p>	 <p>呉本 啓郎 監事 総会からの信任を受け、当法人の目的に沿った業務と合理性、適正な会計処理、法令遵守、善管注意義務を監査・検証・助言し、担保できるよう努めます。</p>
 <p>島田 透 北信越地区会長 コロナ禍の中で様々な「つながり」を見直しながら、今の状況下で行えるPTA活動を模索し、進んでいきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。</p>	 <p>石丸 泰雄 東海地区会長 国立大学附属学校園の伝統を守りながら、これからの新しい時代を切り開いていく子どもたちの未来のために、地域と連携し活動していきたいと思ひます。</p>	 <p>廣川 幸信 関東地区会長 子供たちにとって何が一番大切なのかを最優先に考え、大学、地域、保護者の皆様と協同して、時代に即した教育環境の整備を考えていきたいと思ひます。</p>
 <p>廻野 智典 中国地区会長 地区の附属学校園で連携し、コロナ禍の中でできること、そして収束後に求められるものを共に考え、より良い活動・組織を目指して取り組んでいきます。</p>	 <p>竹内 茂明 四国地区会長 新型コロナの影響の中、様々な活動もままならない状況ではありますが、昨年度よりは今年、さらに次を見据えて少しずつでも前に進んでいきたいと思ひます。</p>	 <p>西村 寧 近畿地区会長 全国と近畿地区の附属学校園の皆様のおかげ橋となれるよう、それぞれが情報を共有しながら、近畿地区附属学校園のアピールに努めていきたいと思ひます。</p>
		 <p>木場 一志 九州地区会長 単Pの活動すらままならないなか、今年度のテーマは「つなぐ」です。地区連合会をどう繋いでいくか。大きな課題に取り組んでいきます。</p>

緊急特集 新しい時代の研究発表への挑戦

附属学校の改革に関する有識者会議の報告書が出て4年が経過しようとしています。コロナ禍にあっても、改革の歩みを止めず、地域の模範となるべく全国の各地区の附属学校園では、研修会、研究発表会等の事業が行われています。今回はそれらの実験的、先導的な取組を紹介します。

香川大学教育学部附属幼稚園

本園では、平成29年より、本園の保育や事例をもとに、大学教授等も交えて語り合う「保育について語ろうデー」という研修会を年に3〜6回程度開催している。参加者は、県内の幼稚園・保育所・認定こども園等からの希望者であり、1回の参加人数を15名程度に制限している。少人数での開催により、参加者は、登園から降園までの1日の生活をゆっくりと参観できる。子どものつばやきや遊びの展開、保育者の言葉かけなどを間近でじっくりと見ることで、子どもの身になって考えたり、自分が保育者ならどう関わるだろうと考えたりしながら自分自身と向き合う。



保育討議においても、参加者が多い研究発表会の時とは違い、人の話を聞き取りでなく、自分の思いや保育について話しやすい機会があり、参加者が主体的に参加できる研修の場となっている。また、参加者が、少しでも緊張を和らげ、日々

地域の学びのネットワークづくり

の悩みや葛藤をさらけ出して発言できるような工夫をしている。『主体性って何だろう?』『これまで私がやってしまった保育での大失敗』など、誰にとっても身近で、語りたくなる協議テーマを設定するとともに、共感をもって受け止め、共に考える雰囲気心がけている。事後の参加者アンケートには、「就学を焦らず、ゆとりをもって保育をしたいと思つた」「自分の抱えている悩みが話せたことで日頃のもやもやが解消され、明日から頑張ろうと思えた」などの前向きな思いが綴られている。

保育の質の向上が求められている現在、保育者が自分自身と向き合う時間をもち、他者と語り合う中で心を動かし、自ら実践課題に気付いていくことが重要であると考え。その一助となる地域の学びのネットワークを構築すべく、我々は、子どもと共に在る保育の営みありのままに開き、共に学ぶ保育者の一人として謙虚な姿勢で語り合い、保育の質の向上に努めていくと共に、今後も附属幼稚園として発信を続けたい。



福島大学附属中学校

本県の多くの学校では、一人一台端末と高速大容量ネットワーク整備が昨年度末、急ピッチで進められました。そして、今年度となり、各学校ではタブレット端末の活用について試行錯誤が続いております。そうした中、本校ではタブレット端末を5年ほど前から本格的に授業で活用してきております。昨年度、教育委員会の指導主事等の先生方にタブレット端末を活用した授業を見ていただいた際、「是非、公立学校へも同様の授業を提供してほしい。」というご要望をいただきました。



ここで4、5月に、タブレット端末活用の特化した授業を公開しました。感染症対策として、1授業につき参加者の上限を10人と設定しました。さらに感染状況を踏まえ、参集

GIGAスクール構想における地域貢献

範囲を近隣の中学校にとどめましたが、それでも募集を始めるにすぐ定員に達してしまいました。公開当日は、実験の様子をタブレット端末で撮影した映像を用いながら考察したり、教師と生徒がタブレット端末を使い同時編集で授業の内容をまとめたりする様子を見ていただくことができました。また、当日の様子は、新聞(地方紙)などにも掲載され、その後の開催を望む声もいただきました。そこで、6月、7月には、参集範囲を県内の中学校に広げ、授業公開を5回企画しました。また、三密をさけるために授業を体育館で行ったり来校前2週間の検温表の提出を求めたりするなど、一層の感染予防対策を講じて実施しています。本校では、授業の中でタブレット端末を単に活用するだけでなく、それらを有効に用いて学びが深まる授業づくりを心がけております。公開する授業で、生徒達がタブレット端末を使いこなしながら探究したり発表したりする姿を見ていただけるよう努めています。



大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎

令和3年度の研究会は、コロナ禍にあつて、人数を絞った対面形式や、全てオンライン(リアルタイム)での実施も検討したが、生徒の感染防止と教員のICTに関する力量の向上も目指し、「授業のオンデマンド配信」+「協議等のリアルタイム配信」のハイブリッド形式で実施した。



配信用事前録画映像

第67回教育研究会について

全体会でのあいさつなどはリアルタイムで配信し、研究会の主旨説明や学校の紹介は録画したものを流した。パネルディスカッションはテレビのスタジオ中継のような形でリアルタイムの配信を行った。事後の参加者アンケートからは、プログラム全般にわたり9割以上の方にとっても満足、やや満足のよい評価をいただいた。評価のポイントで目立ったのは以下の点である。

自分の自由な時間で授業と指導案をじっくりと見ることができた。

遠隔地でも参加しやすい。

授業の様子、特に生徒の様子がよくわかる。研究協議では声の大きな人に左右されず、自由に発言しやすい。

これらのご意見は今後の対面形式の研究会でも、ICT機器の活用により、よりわかりやすく、より伝わりやすいものにするのが可能であることを教えてくれた。次の教育研究会では、ICTの活用を進め、対面の良さ、遠隔の良さをよく検討し、さらにより研究会が実施できるよう、中高ともに努力していきたい。



理科 分科会風景

奈良女子大学附属中等教育学校

「中高生であることは忘れ、大人の研究者のつもりで活動する。」

「大学入学後はすぐに研究室に入り浸り、大学院生と肩を並べて研究する。」

「他の誰もが気づいていない面白さを見つけ、新しい価値を社会に提案する。」

これらは、放課後も研究活動を続ける本校サイエンス研究会の卒業生が築き上げた伝統である。「中高生だから」「研究室に行くのは数年学んでから」という「まづは先人が行ったことを丁寧に追体験してから」というあらゆる規格を飛び越え、自らの好奇心のために学ぶことが何よりも優先される研究会だ。

スーパースサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受けてからの17年間、本校SSHではこのような「規格外」の人材育成を目指してきた。出入り自由な研究室を生徒に与え、思いついたアイデアをすぐ試せるように道具を散りばめる。「綺麗に片づけすぎるな。書

「規格外」の人材育成がもたらすもの

いたものをすぐ消すな。いつでも誰でも自分が考えたことに触れられる環境にすること。誰かが何かを思いつくかもしれない。教師がこのように後押しする空間で学年も分野も超えた人間が入り混じり、好きなだけ議論する。この空気感こそが、長年の研究開発で培った独創的な世界である。教師の役割は、生徒の好奇心を潰さず、その火種をいち早く察知して燃るべき土俵に上げる陰の立役者となることだ。そのために、授業や探究活動の中に小さな仕掛けを分散させ、好奇心の発見に繋がるカリキュラムを設計している。「なるほど。この子はそう考えるのか。」と、可能性を見つけたときの喜びは表現しきれない。

不思議なもので、「規格外」の人材が育つほど他の生徒の能力も必然的に向上する。その根底には、生徒のみならず、教師自身の思考が変化していく現状がある。一度高みを知ってしまったら、視点はアップデートされ、世界の捉え方は変わってしまう。生徒も教師も変化し続ける学校教育のその先に、創造的な未来社会が拓かれることを期待したい。



香川大学教育学部のリカレント教育について

打てば響く教材、附属学校園

香川大学教育学部教授 北林 雅洋

文部科学省作成の「令和3年度予算(案)資料」において、「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業(継続事業)」の説明に、香川大学の取り組みが、二つの事例の一つとして次のように示された。

「附属学校を活用した参観実習、IT等による体験授業のほか、教職自主サークルや教職セミナー等を通じた個々に応じたサポートを充実する。」

この事業では、令和元年度補正予算で開設したプログラムを引き続き実施して、教員免許状を持つものの教職への道を諦めざるを得なかった方たちの、学校現場への参画を支援する。令和2年度は8大学が採択されて事業が実施された。その中で、「附属学校を活用した」取り組みとして一定の成果を挙げたことで、香川大学が注目されたのだと思われる。

令和2年度の事業の公募の際、私が香川大学の企画立案の責任者を務め、附属学校園担当の副学部長でもあったため、新たな試みを附属にもお願いした。受講者は教員免許状を持つものの教職につかなかった方たちで、学校現場で活躍するためには、更新講習の修了に加えて更にサポートを求めておられる。その教職へのサポートプログラムの重

要な部分を、附属に担っていただいたのである。講習は7科目をオンラインで、いつでも受講できるようにして、テキストも作成した(写真参照)。修了認定試験もオンラインで本人確認しながら実施した。

幸い受講者数は目標を上回り、その約半分が香川県内の方だった。この事業の事務を担当した職員のお子さんの学校では早速、修了された受講者のお一人がこの4月から活躍されている。オンラインであるため、遠くは宮城県や鹿児島県の方にも受講していた。受講者評価書の自由記述欄には、繰り返し内容を確認することができた、空き時間を使って計画的に短期間に受講できた等、オンライン講習の利点に関する記述が多かった。また、興味深く受講できた、見方・考え方が変わった等、内容面での手応えが感じられる記述も多かった。今年度も香川大学はこの事業を実施する。附属には教職への支援に欠かせない生き生きとした教材として、引き続き重要な役割を担っていただく。

他方、教員養成では新たに必修科目「総合的な学習の時間の指導法」が設けられた。香川大学では昨年度から開講し、私も担当している。講義内容の重要な柱として、2地区にある附属小・中学校それぞれの特徴的な取り組みを位置づけた。昨年度は現職の教職大学院生も受講し、「考え方が変わった」という感想が指導教員に寄せられたという。指導教員はその感想に驚かされていたが、「附属の実践を」と私が説明し始めただけで納得された。附属学校園は教員養成にも貴重な教材を提供していただける。

附属学校園は打てば響く教材でもある。打たなければ響いてくれない。大学教員は教員養成・研修の教材として、いろいろな打ち方を附属学校園に試みても良いのではないだろうか。簡単なことではないだろうが、附属学校園には、よりよく響くための働き方改革を期待したい。

附属学校園は打てば響く教材でもある。打たなければ響いてくれない。大学教員は教員養成・研修の教材として、いろいろな打ち方を附属学校園に試みても良いのではないだろうか。簡単なことではないだろうが、附属学校園には、よりよく響くための働き方改革を期待したい。



宮城教育大学附属小学校

本校では、宮城教育大学とNPO法人みんなのコードとともに、「CS(コンピュータサイエンス)教育」のカリキュラム開発に向けての実証研究プロジェクトを立ち上げ、国内で初めてCS科を新設しました。子供がより適切に情報活用能力を発揮するためには、その特性や原理についての科学的な理解が必要であり、海外でも広くコンピュータサイエンスを学ぶことが求められるようになってきています。本取組は、これからの日本におけるCS教育のモデルケースとなることを願うことです。



2年「つないだ線が見えるかな?」の様子

令和2年度は、1・6学年の指導内容の系統表を作成し、学年ごとに10時間の実践を行いました。1月の公開研究会では、その一端として2本の授業をオンデマンド型で提案しました。2年「つないだ線が見えるかな?」では、「無線はどこまで届くのだろうか」という学習課題の下、micro:bitを用いて電波が届く距離を測定する

福井大学教育学部附属特別支援学校

令和2年度、緊急事態宣言を受けた全国一斉休校が明けて、学校を再開できたのは6月。緊急事態宣言が解除されても、全国では、研究発表会等の中止の音が相次いでいました。そんな中、本校では、何とか公開研究会を開催しようと、活動の公開の仕方や協議の持ち方などについて情報を集め検討を重ねました。そして11月、オンデマンドとオンラインを組み合わせた公開研究会を実施しました。事前に、本校のホームページ上で、子どもたちの活動の動画と、活動案などの資料を配信しました。活動の動画は、小・中・高等部の活動をそれぞれ10分程度のダイジェスト映像にして、テロップで簡単な説明を加えました。研究会当日は、オンラインで、講演と学部ごとの協議会を行いました。少人数のグループセッションという形で学部ごとの協議会を設定し、全国から



withコロナ時代の研究発表会

withコロナ時代の研究発表会

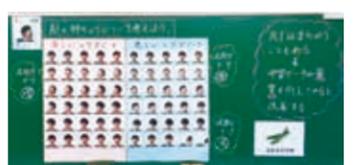
参加してくださった方々とやりとりを深めることができました。「満足した」という回答が多く、今回の研究テーマに関する協議が深まったことだけでなく、オンラインでの研究発表会のあり方について参考になったというような意見や感想を多数いただきました。実際の活動の様子を見ていただけない物足りなさを感じ、全体会とグループセッションの切り替えのタイミングの不具合もあったことから、研究会の構成や運営の上では、今後への課題も浮かび上がりましたが、実施できたことを大きな成果ととらえています。また、例年以上に遠方の先生方の参加が多かったのは、オンライン開催であったからこそだと考えています。本年度においても、「一人一人の学びが深まるカリキュラムマネジメント」を研究テーマとして、11月に昨年度同様、オンデマンドとオンラインの公開研究会を実施する予定です。多くの方々と情報を共有し、研究を深められたらと考えています。



未来の学校教育を見据えた挑戦 新教科CS

活動に取り組みました。子供は、「見えない線のつながりは、近いほど届きやすく、遠いと届きにくいことが分かった」と感想をもちたり、タブレットと電子黒板を見て、「ここにも見えない線がある」とつぶやいたりするなど、無線通信への理解を深めた様子が見られました。6年「AIって何だろう」では、誤認識するプログラムを提示してAIの特徴を体験的に捉えさせる授業を提案しました。子供から「AIは学習データの量や質によって間違えることもある」といった特徴や仕組みについての感想が多く聞かれ、理解の深まりが見られました。Zoomによる検討会では、参観者から先進的な取組に対する賛同の声を多くいただきました。

今年度は、実践を重ねながら、カリキュラム・マネジメントの視点から他教科等との有機的な連携を図るとともに、MA(朝の活動)の時間の有効活用にも取り組みます。令和4年1月28日には、公開研究会を開催し、広く情報を発信していく予定です。ぜひ御期待ください。



6年「AIって何だろう」の板書

新しい時代の部活動 ～教育効果と働き方改革の両立～

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

主幹教諭

松田 雅彦



小学生遊び教室オンライン版

「責任を持ってやり遂げる態度」などを育成することにあります。優秀な成績をあげることだけを

昨年度、文部科学省から「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」が公表されました。それによると、休日の部活動は令和5年度から段階的に地域へ移行され、平日の「学校部活動」と休日の「地域部活動」に分かれます。この改革のポイントには休日の「地域部活動」が学校管理下で行われなくなることです。教員が休日の部活動に携わらなくなるため、現行の方法で部活動を実施することが困難になります。この改革が進むと、休日に部活動に参加する場合、生徒は別の受け皿団体に所属しなければなりません。そうすると、生徒は自身の保険料のほかに、指導者の謝金・交通費・保険料、施設使用料、受け皿団体の会費等を負担することになります。生徒が負担する費用の多寡は、部活動を「みんなが楽しめる」「公的」「サービス」ととらえるのか「一部の払える人への」「私的」「サービス」ととらえる人への「私的」「サービス」と

学校の働き方改革と部活動の両立



ハンドボール部OBとの練習

関わる組織では決してありません。部活動は「みんなが楽しめる(公的)サービス」であり、生徒自らが意思決定して計画を立て、活動を振り返り、修正するプロセスをとって生徒が成長する場なのです。

このような改革が進められようとするなか、本校では、多くの生徒が関わること、生徒や家庭の負担を極力少なくすることをねらいとして「学校の教員」「生徒会」「OB・OG会」「地域住民」の4つの団体が構成する「スクール・コミュニティクラブ」ひらの倶楽部」を学校内に立ち上げました(図1参照)。この団体の特徴は「総合型地域スポーツクラブ」がもつ機能を備え、事務局とクラブマネージャーを配置していること、また、組織が学校内にあることや生徒会代表が理事になっていることなどです。今後はPTAのみならずにも協力を依頼する予定をしています。「ひらの倶楽部」に部活動のOB・OGが加わることで専門的指導者が確保できたり、活動が活発になったりします。教員は休日に休むことができる一方、指導を望む教員は「ひらの倶楽部」の指導者として指導できます。今後、学校と「ひらの倶楽部」が協働することで新しい学習活動が可能となることでしょう。

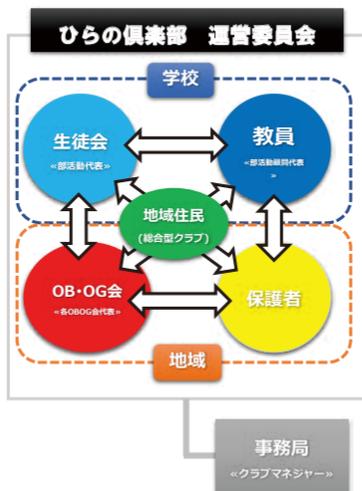


図1. 「ひらの倶楽部」概要

佐賀大学教育学部附属中学校

教頭

吉岡 浩一



部活動指導員による指導 (サッカー)

学校、大学が担当。社会人はもとより、保護者や20歳以上の大学生も指導員に任用できる条件整備を行いました。また、経費については、育友会・後援会に支援をお願いしました。

本校では、2019年4月の「働き方改革関連法」施行に伴い、ワーキングチームを設置して教員の意識改革、日々の業務の改善や見直し、行事の精選等に取り組んできました。中でも、部活動は、教員の長時間労働の大きな要因となっており、その改善は喫緊の課題でした。そこで、大学、育友会及び学校の三者による「部活動検討委員会」で部活動改革について協議を重ねました。その中では、部活動の社会体育化や教員の兼業、土日等の部活動停止などさまざまな意見が出されましたが、将来的な社会体育化を見据えながらも、できるだけ生徒への影響を抑えながら長時間労働を是正する方法を考えることで、共通理解を図りました。その結果、平日の部活動指導は従来どおり教員が行い、土日等の活動については部活動指導員(以下、指導員という)の下で行う方針を定め、2020年8月から新体制に移行することを目指しました。全ての部活動に指導員を導入する際に課題となったのが、指導員の確保と任用に係る経費です。入学式や育友会総会、部活動保護者代表者会等で説明会を実施して保護者や関係者に理解と協力を求める一方、大学、育友会、学校、保護者会それぞれ役割を分担し、新体制づくりを行いました。指導員の確保については、主に保護者会、

部活動指導員の導入による働き方改革の推進



部活動指導員による指導 (バスケットボール)

保護者・関係者の協力の末、2020年7月にはほとんどの部活動において指導員の確保ができ、事前研修会を開催。学校教育における部活動の位置づけや指導員の服務、荒天時の対応、校舎・施設の管理等について確認を行いました。その後、同年8月には全ての部活動で指導員が確保でき、事前研修会を経て、8月末には完全に新体制に移行しました。また12月には2回目の研修会を開催し、AEDを用いた救急救命講習や指導員同士の意見交換を実施したところです。新体制に移行した結果、それまで教員が行っていた土日等の部活動指導や大会の引率等は0時間になりました。新体制導入後に実施したアンケートには、「専門的な視点からさまざまなアイデアを出してもらい、練習メニューが豊富になった(生徒)」「慣れるまでに戸惑いはあったが、土日の休養、家庭のことに使える時間が増えた(教員)」など、新体制を肯定的に受け止める声があがっています。生徒にとっては、土日等の練習時間の確保や技術の向上、教員にとっては部活動指導の負担軽減による時間の有効活用や健康の維持など、新体制導入の成果は大きかったようです。その一方で、「今まで以上に教員、指導員、保護者との連絡が求められる(教員)」「セキュリティの問題、教員と指導員の役割の明確化(指導員)」などの課題も浮き彫りになってきました。今後はこれらの課題を、大学、学校、育友会、指導員間で共有しつつ、持続可能な体制や安定的な経費の確保などにも、一つ一つ丁寧に対応していきながら、引き続き部活動改革、働き方改革に取り組んでいきます。

前 内閣府知的財産戦略推進事務局参事官補佐 守 誠一朗様

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、教育現場ではオンライン授業の導入が進み、先生方は、デジタルコンテンツの利用を通じて著作権等の知的財産(知財)を意識する機会が増えていると思います。また、子供たちにとって、スマートフォンを始めるデジタル機器がより身近になり、アプリを開発してローンチしたり、クリエイターとして動画等をネット上で気軽に配信できるようになりました。その結果、他人のアイデアを無断で利用した、アーティストの楽曲をBGMに利用したな

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、教育現場ではオンライン授業の導入が進み、先生方は、デジタルコンテンツの利用を通じて著作権等の知的財産(知財)を意識する機会が増えていると思います。また、子供たちにとって、スマートフォンを始めるデジタル機器がより身近になり、アプリを開発してローンチしたり、クリエイターとして動画等をネット上で気軽に配信できるようになりました。その結果、他人のアイデアを無断で利用した、アーティストの楽曲をBGMに利用したな

育は、創造性の涵養と、創造に対する尊重の気持ちの育成を目指した教育であり、この「尊重」の部分は、学校段階が上がるにつれて知的財産権や制度に関する内容へと深めることができます。

地域コンソーシアムでは、定期的な意見交換や、授業に関する情報共有などが行われており、今後も様々な活動が予定されています。知財創造教育に少しでも関心を持たれた方は、地域コンソーシアムへの参加を検討されては如何でしょうか。地域コンソーシアムや教育プログラムなどの知財創造教育に関する情報は、当事務局のウェブサイトに掲載しています。また、ご質問等ございましたらお気軽に当事務局までお問い合わせ下さい。



子供たちと先生が 共に楽しく知財を学ぶために

この重要性が、一層高まっていると感じています。ところで、内閣府知的財産戦略推進事務局が推進している「知財創造教育」は、こうした子供たちや先生方の知財への意識向上につながる取組です。知財創造教育

特に、知財創造教育の特徵として、知財創造教育に取組んでいる先生方、地域企業、関係機関等の方々のご協力で、2021年度から「地域コンソーシアム」と呼ばれるネットワークが全国に形成されています。

内閣府政策統括官(政策調整担当)付 参事官(子どもの貧困対策担当)付参事官補佐 大澤 宙様

給食だけがちゃんと栄養が取れる食事で、夏休みや冬休みにげっそり痩せてしまう子供。虐待やDVにあつて、怯えながら逃げてきた子供。弟や妹の世話に疲れて、自分の勉強の時間が持てず、将来の夢を諦めざるを得ない子供。

そんな貧困を抱える子供たちが、日本にもいます。子供の貧困率は、平成30年時点で13.5%。そしてコロナ禍で、貧困の状態にある子供たちの生活は、更に苦しくなっています。国はこれまでの支援に加え、今回さらに、教育面や生活面を中心に、緊

急対策を強化しました。それでも、どうしても支援が届けられない方々がいます。子供の未来応援国民運動」を推進しています。特に、皆さまの寄付からなる「子供の未来応援基金」を活用して、全国の子供食堂や学習支援の活動を応援しています。全国

「すべての子供に、笑顔と夢を。」今後とも「子供と夢を。」今後も「子供の未来応援国民運動」の応援をよろしくお願いいたします。



寄稿

文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室室長 鈴木 慰人様

国立大学附属学校関係の皆様におかれましては、学校教育への御支援、子供たちの健全育成のために多大な御尽力をいただいていることに敬意を表します。児童生徒が自ら命を絶つという事は、本来あってはならないことです。厚生労働省・警察庁の「令和2年中における自殺の状況」によると、令和2年中の小・中・高等学校の児童生徒の自殺者数は499人(前年399人)と、前年と比較して大きく増加しており、文部科学省としてもこ

うした現状を大変重く受け止めています。このため、文部科学省においては、これまでも、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置の充実や組織的対応の強化、24時間子供SOSダイヤルの周知SNS等を活用した相談体制の整備の推進、教職員等を対象とした自殺予防の研修会の実施、「SOSの出し方に関する教育」を含む自殺予防教育の推進などにより、様々な悩みを抱える児童生徒の早期発見等に向けた取組の

充実を図っています。また、本年3月には、周囲や相談窓口への相談を後押しできるような児童生徒向けの自殺予防啓発動画「君は君のままでいい」を制作し、YouTube上で公開するとともに、5月には、不安や悩みを抱える全国の児童生徒等に向けて、自殺予防に係る文部科学大臣メッセージを発出しましたので、児童生徒等への相談窓口の周知などにぜひご活用ください。

「誰も自殺に追い込まれることのない社会」を実現するためには、国民一人ひとりが身近な人の様子を気遣い、支えていくことが不可欠です。文部科学省としても、児童生徒の命を守り通せるよう、引き続き、自殺予防の取組に全力を尽くしてまいります。

前 財務省大臣官房地方課広報連絡係課長補佐 折居 光博様

財政教育プログラムがスタートして、7年目を迎えました。このプログラムは、日本の未来を担う子供たちを対象に、国の「財政」に興味を持ってもらうため、財務省及び財務局の職員が講師になって、小中学校、高校で実施している特別授業です。

こうした中、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、授業の延期や中止が相次ぎました。そのため、非対面で授業実施が可能となる新たなツールとしての、当該プログラムの動画教材を制作したところ

「日本の未来を考えるきっかけに」(財政教育プログラム)を通じて、一人でも多くの子供たちに日本の未来を考えるきっかけを提供できればと考えています。

このような問題を抱える中、次の世代を担っていくのは子供たちです。持続可能な社会を未来へつないでいくためには、コロナ危機を乗り越えるとともに、子供たちに早い時期から財政への関心を持ってもらい、社会問題を自分事として考えてもらうことは非常に重要です。

日本の未来を考えるきっかけに (財政教育プログラム)

当プログラムを通じて、一人でも多くの子供たちに日本の未来を考えるきっかけを提供できればと考えています。

全附P連 表彰

全国の附属学校PTAはそれぞれの地域で様々な活動をしています。毎年全附P連ではそれらの中から特色あるもの、特に優秀なものを選び表彰させていただいております。ここではそんな活動をご紹介します。

会長賞

金沢大学人間社会学域学校教育学類 附属幼稚園 育友会

当園の育友会が主体となり行う活動の一つに「研修講座」があります。年二回、保護者の学びの場として、子供の発育、食育、コンサートなど様々なテーマで講師をお招きしています。

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生活様式は変わり、当園でも様々な行事が縮小を余儀なくされました。そのような中、先生方は例年と変わらない子供の学びの保障にご尽力され、活動形態は違っても、楽しみながら成長できる

優秀賞

北海道教育大学附属釧路義務教育 学校前期課程 父母と先生の会

本校は例年、総務、事業、安全、広報の4つの委員会組織でPTA活動を行っていましたが、令和2年度は、委員が「全員で集まらない」「過度な負担がない」取組を検討し、活動を進めました。コロナ禍において「できなくなった」ことを憂うのではなく、「何ができるのか」を考え、次々と行動に移すPTAの姿は、子供たちに大きな影響を与えており、改めてPTA活動の価値や意義を実感しました。

具体的には、例年とは違う形での「家庭教育学級」の開催。講師を招聘した救命救急講習会や、教職員によるけがの起こりやすい場面の再現動画を撮影・編集したものを、子ど

歩み続けるPTAの姿が子供たちの力に!

私たちは給食時間に学級で、保護者は本校HPからYouTubeにて視聴しました。また、制服バザーのWeb開催に向け、バザー用の制服等のカタログを作成し、多くの利用がありました。行事が縮小されるなどした6年生のために、6年間の給食を想起しながら小学校生活を振り返る「サプライズ給食」を栄養教諭と連携して企画し、子どもたちの思い出作りに貢献しました。他にも「健康」に関する動画等をZoomを使用して作成したり、広報紙をWeb版で作成したりするなど、委員の方の知恵とアイデアによる新しい取組が生まれました。



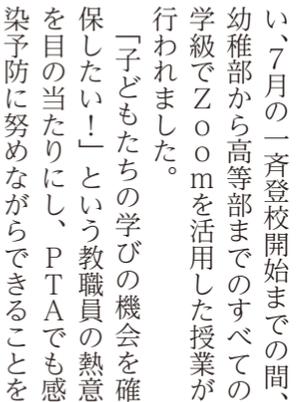
制服バザー



動画視聴



動画



コロナ禍におけるオンラインを活用したPTA活動

休校からスタートした令和2年度、本校ではいち早くオリジナルの学習動画を配信。4月の後半には全家庭でオンライン環境が整い、7月の一斉登校開始までの間、幼稚園から高等部までのすべての学級でZoomを活用した授業が行われました。「子どもたちの学びの機会を確保したい!」という教職員の熱意を目的に、PTAでも感染予防に努めながらできることを

やってみよう、という意識が高まりました。状況に合わせてオンラインと対面を組み合わせ、結果として様々な活動を行うことができました。オンラインで行った活動の中で、特に「講演会」は対面と同じかそれ以上の良さがありました。遠方の講師でも依頼可能なので、自宅で気軽に参加することができ、また、講演者の許可があれば動画配信もできるため、リアルタイムには参加できない保護者や教職員も視聴することが可能となり、大変好評でした。「コロナが収まり対面が可能になっても、オンラインを続けて欲しい」という声も多数ありました。一方、「オンラインは苦手」「たまには人と集みたい」という方もいらっしゃるので、学校の協力を得て、PTAの会議やスイーツ講習会などをオンラインと対面をミックスした「ハイブリッド」で行いました。



コロナ禍をプラスに捉えた保護者活動

育友会もコロナ禍での活動を問い続けました。そして、良いものに発展させるプラスの機会と捉え、「研修講座」をオンラインでできないかと検討しました。試行錯誤を重ね、より多くの方が参加できる方法として、対面かオンラインかを選択できるハイブリッド型で開催することにしました。

講座内容はタイムリーであり且つオンラインを活かしたものにしたいと考えました。その頃園医から、マスクの弊害として、子供たちの滑舌が悪くなる、表情が乏しくなる等の指摘があったことを受け、言語聴覚士の立場から正しい知識をご指導いただきました。先見えのない日々が続きますが、これからも幼稚園と保護者が互いに協力し合い、より良い保護者活動を推進していきたいと思います。



筑波大学附属大塚特別支援学校PTA
この度は本園PTA活動をお認めいただき、誠にありがとうございました。大変感謝申し上げます。本園では昨年度、コロナ禍で休園を余儀なくされた期間に、PTAブログを立ち上げました。「チーム附幼へようこそ」「PTA会長の挨拶とインタビュー」等、保護者のニーズに応じた様々な情報を発信すると共に、役員や係決め・アンケート等をWebで行い、保護者が安心して

コロナ禍の保護者の絆づくりと園行事の工夫

園再開の日を迎えられる体制と絆づくりに努めました。ブログを通して、本園PTAの温かくパワフルな雰囲気や「不安な気持ちや和らぎました。私もがんばろう」と思いました。という意見があり、保護者の一体感を高めることにもつながりました。園再開後は、例年行っていた園行事について、園と協議を重ね、安心・安全に意義ある経験を保障する工夫と支援を行いました。園再開後の「夏まつり」では、検温や手指消毒等の徹底の協力、3密を避けた場所や時間、人の流れ、アトラクション内容等の工夫を凝らし、安全・安心で中身の濃い充実した「夏まつり」を開催することができました。12月の「餅つき」は、食すことから「ミニ鏡餅作り」に内容を変更しました。薪が燃える香り、立ち上る白い蒸気、杵の重さやつく音、できたての餅の軟

らかさ、そしてサポートの保護者の温かさ等を、子どもたちは身体と心でしっかりと味わいながら、昔ながらの餅つきの経験をすることができました。今もコロナ禍中ではありますが、今年度も、新会長の下、昨年度までの「絆」「チームワーク」を大切に、園と協力して活動を進めてまいります。今後も子どもたちの笑顔あふれる園であるために、園とPTAで手を取り合って力を尽くしてまいります。



ブログのトップページ

優秀賞

熊本大学教育学部附属幼稚園 PTA



1月のもちつき

この度は本園PTA活動をお認めいただき、誠にありがとうございました。大変感謝申し上げます。本園では昨年度、コ

コロナ禍の保護者の絆づくりと園行事の工夫

園再開の日を迎えられる体制と絆づくりに努めました。ブログを通して、本園PTAの温かくパワフルな雰囲気や「不安な気持ちや和らぎました。私もがんばろう」と思いました。という意見があり、保護者の一体感を高めることにもつながりました。園再開後は、例年行っていた園行事について、園と協議を重ね、安心・安全に意義ある経験を保障する工夫と支援を行いました。園再開後の「夏まつり」では、検温や手指消毒等の徹底の協力、3密を避けた場所や時間、人の流れ、アトラクション内容等の工夫を凝らし、安全・安心で中身の濃い充実した「夏まつり」を開催することができました。12月の「餅つき」は、食すことから「ミニ鏡餅作り」に内容を変更しました。薪が燃える香り、立ち上る白い蒸気、杵の重さやつく音、できたての餅の軟

対面だからこそ意義のある活動もあります。PTA会員や生徒の親睦の場である「サロンドおつかい」や「お楽しみ会」、生徒の経験を広げる「放課後カフェ」、「放課後清掃活動」は好評のため、早く再開出来るよう願っています。今回、コロナをきっかけに「オンライン」という新しいチャンネルが定着し、PTA活動の幅が広がったように思います。学校・PTA活動共に「対面」が基本になりませんが、いつ起こるかかわらない今回のような非常事態にも円滑に対応できるように、平時から学校とPTAの活動のなかに「オンライン」を取り込み、自然なものとして馴染んでいくことが必要だと感じています。



ブログのトップページ

優秀賞

香川大学教育学部附属坂出学園 松韻会

保護者の方から「洗い替えてもう一枚体操服が欲しい」とか、また「きれいなのに小さくなった」「卒業してもう使わない制服がもったいない」という声に対して、不要になった制服や体操服等を回収し、主に総会時に格安で販売し、売上金で子どもの好きそうな図書や遊具を購入して寄付を行ってきた。

しかしコロナ禍で販売はおろか回収もままならない日々が続きました。

そこで回収は無人で行い、そして販売では事前アンケートを取り、密にならない工夫をして事業を開催した。

- ① 受付を1か所にし、検温・手指の消毒を行った。
- ② 整理券を配り、各会場に大勢入らないよう順番に案内した。

優秀賞

静岡大学教育学部附属浜松小学校 父母と教師の会

本校には「昼休みファンタジア」という、昼休みの時間を利用して、子どもたちへ絵本の読み聞かせの活動を行う読み聞かせサークルがあります。活動は、月1回金曜日のお昼休みに、多目的ホールと呼ばれる視聴覚室のような場所で行い、全学年を対象に、様々な学年の子どもたちが参加して絵本の世界を楽しんでいます。

新型コロナウイルスの影響で、通常の活動（対面での読み聞かせ）ができなくなった今年度行ったのは「読み聞かせ動画の配信」です。

メンバーが読み聞かせの動画を各々撮り、各クラスお弁当の時間や、朝の会、帰りの会などで観るシステムです。例年、クリスマスや卒業記念に行っている、ピアノをBGMに絵本を読みかせるイベントも動画で行い、子どもたちからもたくさん感謝の声が寄せられました。

動画のやりとり

Googleドライブを利用し、メンバーリーダー校務主任各クラスという方法

回数と絵本の種類

6学年同じ絵本ではなく、発達にあわせた絵本を提供するために、低学年、中学年、高学年と絵

コロナ禍でのエコ販売事業

- ③ スリッパを使わないよう靴カバーをして校舎に入った。
 - ④ 部門別（中学生用、小学生体操服、幼稚園等）に会場を分け、またサイズも分かりやすく分類し、人の動線も一方通行にして保護者同士交差しないようにした。
 - ⑤ 精算場所を3か所設け、スムーズに精算できるようにした。
 - ⑥ マイバッグを持参してもらい、商品を自分で持つて帰ってもらった。
- 今まではバーゲンセールの大混雑のような中で開催だったが、当日は混雑することなくスムーズに人が流れ、陳列も整然と並べられて見やすかったと好評でした。
- 10年以上続いている継続事業ですが、今後もアイデアを出し合って保護者の方の満足度も上がり、子どもたちにも喜んでもらえるよう頑張りたい。



コロナ禍 読み聞かせ動画の取り組み

- ① 全員が視聴できることにより、今まで観覧しなかった子どもも視聴できるようになった。
 - ② 自宅で撮ることにより、普段活動に参加できない家族も参加することができた。
 - ③ 感染リスクがない。
- ※例 母朗読 姉ページをめくる 父撮影
- ④ デメリット
- 読み手、聞き手がお互いに表情を直に感じることができない対面と異なり、動画配信だと一方的になり、双方向のコミュニケーションがとれない。

なお、各教室で朝の時間に、クラス単位で活動する読み聞かせ活動を行う「朝ファンタジア」もあります。こちらは各教室、教卓で読み聞かせを行い、子どもたちと距離を保って対面で行いました。教卓からだともえにくいという配慮で、iPadなどの端末を利用して、テレビにミラーリングして読み聞かせを行ったクラスもあり、対面化でも工夫した活動を行っています。



撮影風景の事例



視聴風景の事例

優秀賞

京都教育大学附属幼稚園 育友会

本園には、本部・文化部・ベルマーク部・体育部・文集部という五つの部で構成されている育友会（PTA）活動があります。今回はその中の一つである「体育部」の前年度活動についてご紹介させていただきます。

園児が身体を動かす、家庭で楽しめる事は何か

昨年4、5月は、自粛期間が続き、地域にある公園は閉鎖され、満足に外で遊ぶこともできない日々が続き、子ども達は、大きなストレスに晒されていきました。そのため、体育部では、家庭での運動的な遊びを保障しなければなら

優秀賞

三重大教育学部附属小学校 育友会

本校PTAでは、定員の減少やGIGAスクール構想を見据え、役員数の削減やPTA活動の負担の原因の一つとなっていた会議や配布物など「学校に赴き行う作業」を「いつでもどこからでもできる」作業に転換することによって、時代に即した「誰もが無理なく積極的に参加できる」PTA活動を実現しようと、年度当初以前より、選挙制度をはじめとする様々な制度の見直しやICT環境を整え組織運営改革を目指しました。各案内や募集時の配布物に関しては、学校に赴きコピー、配布、集計しており、学校に集まる

優秀賞

広島大学附属幼稚園 木いちごの会

新型コロナウイルス感染拡大の影響で幼稚園行事の実行が難しい中、保護者と先生が子どもたちのためにできることは何かを問い直し、2020年秋に計画していた保護者等向け即売会である「バザー」について、開催方法を工夫して適切な感染予防対策を講じつつ、保護者だけでなく子どもたちも楽しめる新しい企画を取り入れて実施しましたので、ご紹介します。

まず、特段の制限を設けていなかった参加対象者は、園児とその保護者に限定し、開催日も休日から平日へ変更。開催場所は、3密回避の観点から、例年行っていた狭小な保育室ではなく、広い

今できること

～温もりを込めた遊びの提案～

いと考えました。
3〜5歳児の幼稚園児の成長度合いは、学年により大きく異なります。文字の理解が不要なもの、自粛生活の中、室内で遊びが完結するものという条件で選定した所、「あいうえおポーズカルタ」が適していると考え、これを全園児に贈る事を決定しました。あいうえおポーズカルタは、読み手の読んだポーズの描かれた取り札のポーズを一番早く真似した人が札を取れるというルールのカルタです。ユーモアなポーズを取ることで全身運動が叶い、そのポーズを見て、家族に笑いが起こると言う、こころと身体を健康に保つ豊かな時間を表現する事ができたと思います。

【ご褒美メダルの作成】
コロナ禍では、幼稚園活動で子どもたちが触れ



時代に即した「30年先を見据えてのPTA活動の見直し」

ことを極力少なくするため、学校が利用していた既存の緊急メール（保護者に一斉送信できるもの）をPTA活動にも利用させていただきました。

具体的には、案内についてはメール本文とともに資料・活動報告などGoogleドライブに保存したファイルへの共有URLを添付する事で閲覧していただき、参加募集やアンケートについてはGoogleフォームを利用していただくという手法です。同様に、役員選挙に関しても立候補の受付など同じ方法で行い効率化を図ることができました。

また活動においても、会議に関しては、附属する三重大大学のネットワーキングの許可をいただき、Zoom会議ができる体制を整えました。学校での書類や現金の受け渡しが多かった会計作業も、ネットバンキングを利用が可能ではないか検討をさせていただきます。



コロナ禍でも子どもたちに楽しい思い出を

幼稚園ホールへ見直しました。
バザー当日は午前/午後の2部制とし、午前の部は新たに企画した「園児向けバザー」としました。具体的には、まずクラス別に参加時間を設定し、参加までの待機時間は、「森のようちえん」と言われる本園の良さを活かして、子どもたちは先生と遊びながら森で待機しました。バザー会場では、保護者が「お店の人」となり、子どもたちは「お客さん」となって、廃材を使った保護者手作りのおもちゃ等を買って、「お買い物ごっこ」と、ゲームを楽しみました。

午後の部である保護者向け即売会では、参加者を4つのグループに分けて買い物ができる人数を限定。入口は1つにし、入場者へ消毒の実施やマスク着用を確認。出口は別に設け、密集を回避すると共に、人との接触を減らしました。

当日の子どもたちは、どれを買うか時間をかけて選ぶ姿が見られ、「自分で買物ができたのが嬉しかった」という感想や、その後の保育や家庭の中で、「お買い物ごっこ」をしたという話も聞かれ、子どもたちにとって良い思い出となったようです。保護者からも「子どもたちの笑顔がたくさん見られ、素敵なお思い出になった」と好意的な意見が多く寄せられました。保護者と先生が協力し合い、「子どもたちのために」という方向性を共にしながら、最後まで諦めなかったことが、今回のバザー開催に繋がりました。コロナ禍はまだまだ続くと思われませんが、今後も様々な取り組みにチャレンジしていきたいと考えています。

国立大学附属学校園のPTAの皆様へ



全国国立大学附属学校 教育後援会連絡協議会 理事長 幡谷公朗

この度、全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会(以後、全附後連と呼称します)の理事長に選出されました幡谷 公朗です。以前から後援会組織を持っていた学校もありましたが、平成13年の文部科学省直達により、国立大学附属学校園の大半に寄附金管理団体としての教育後援会組織がPTAと分離して設立されました。

PTAは現役保護者で運営されるのに対し、寄附金の資金管理団体としての教育後援会は現役保護者ではない者が運営することと指導がなされました。

近年、国の予算から配分される国立大学向けの運営費交付金は毎年減額となっており、附属学校園に於ける寄附金の重要性は益々高まってきております。

しかしながら、寄附金の取り扱いやコンプライアンスについてはまだまだ検討の余地があり、令和元年に文部科学省に確認した寄附金に関する解釈を踏まえ、適切な運用を図っていく必要が出てきております。

このような課題を全国の教育後援会が集まり調査研究し附属学校園の運営を支援すべく、平成29年9月に全附後連は設立され、現在、全国で94校園が加盟しております。

全附後連は、昨年度1年間はコロナ禍の影響で休会を余儀なくされましたが、今年度は全附P連と情報交換を行いながら活動し、情報発信をして参ります。1年間、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和2年度 全附P連助成事業報告

令和2年度に全国で実施された助成事業を紹介します。またリスト中の活動についても、一部全附連ホームページでも紹介しています。ぜひご覧ください。

いじめ防止プログラム助成事業
全附P連では、いじめ対策に関する取り組みを活性化させていくために、いじめ対策活動等助成事業を実施しています。

Table with 2 columns: 学校名, 活動名. Lists various activities like CAP programs, teacher training, and seminars across different schools.

カンガルーシップ活動助成事業
カンガルーシップ活動助成事業は「障がいの理解につながる活動」や「特別支援学校・学級との校種を超えた取り組み」を応援する事業です。

Table with 2 columns: 学校名, 活動名. Lists activities like 'Dose' screenings and PTA special events.

Table with 2 columns: 学校名, 活動名. Lists a challenge house activity at Tsukuba University.

全附連ホームページ&Facebookページの紹介

全附P連では、全国の附属学校園の皆様へ役立つ情報をお届けしようと、「附属だより」という紙媒体の広報誌を年に2回発行しております。全国のたくさんの方に手に取っていただける媒体として継続して発行し続けてきました。

Includes screenshots of the website and Facebook page, with text explaining their roles and how they provide information to members.

第12回 全国大会
「子どもたちとこの国の未来のために～今こそ附属の底力を見せて、新しい時代に向き合おう～」をスローガンにリモート型で開催。

発行所
全国国立大学附属学校連盟
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門

Organizational chart for the PTA association, listing roles like Executive Director, Board Members, and Officers with their names.

2021年度 中途加入受付中 カンガルー保険のご案内
Includes details about insurance benefits, enrollment procedures, and contact information for the insurance provider.

カンガルー保険・取扱代理店の問合せ先
List of agents for Kangaroo Insurance, including First Sengwa and Kaisho Shoji, with their addresses and phone numbers.